

# 学校評価報告書

学校名 深谷市立藤沢小学校

校長名 浅見 哲也 印

## 1 学校評価のねらい（学校としての受け止め）

本校の教育活動及びその他の学校運営について、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校関係者や保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される学校づくりを進める。

## 2 評価の方法（自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等）

- (1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。
  - ①教育課程の編成・実施に関する評価
  - ②教育課程の編成と実施を支える条件
- (2) 学校関係者（学校運営協議会委員）から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価を実施する。
  - ①教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価
  - ②教育環境の状況に関する評価
- (3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年2回、評価を実施する。
  - ①教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価
  - ②教育環境の状況に関する評価
- (4) 全児童から学校生活・家庭生活について年2回、自己評価する。
  - ①学校での規律ある態度に関する評価
  - ②家庭での規律ある態度に関する評価

## 3 評価の結果

### (1) 主な指標の変化

児童への調査では、「学校が楽しい」が95.3%、「学校が好き」が94.3%と評価しており、ともに前期の調査より増えている。また、深谷市「6つの誓い」の中の「あいさつ」が91.9%、「くつそろえ」が93.5%、「ありがとうが言える」が97.0%と忠恕の心が育っている。中でも、「まちがったことをした時、素直に『ごめんなさい』と言っていますか」「みんなで協力し合って、楽しいクラスをつくらうとしていますか」「お世話になっている人に『ありがとう』が言えますか」が97%を上回って最も高く、相手の気持ちや立場が考えられる児童が育ちつつある。全17項目で90%を上回った。

保護者への調査では、全16項目中14項目で90%以上の評価を得ており、1回目の結果を9項目で上回った。特に、「たくましく健やかな体の育成」「やさしく思いやりのある豊かな心の育成」「子どものことについて相談に応じてくれる」「安全で学びやすい環境の整備」「友達と仲良くできている」が98%以上達成している。反対に、「家庭での学習習慣が身に付いている」「勉強や運動など、粘り強く努力している」は80%台に止まり、今後の積極的な働きかけが求められる。

## (2) 目標の実現状況（指標との関連）

学校教育目標「なかよく、かしこく、たくましく」に向けて、学校では3つ（安全、学習、人権）の保証を掲げて取り組んでいる。安全の保証では、「安全であり、学びやすい環境を整えているか」は98%、学習の保証では、「基礎学力が身に付くよう、分かりやすい授業を行っていますか」は97%、人権の保障では、「子ども達一人一人を大切にし、よく理解していますか」は94%と概ね高い評価を得ている。

学力について、「全国学力・学習状況調査」では、第6学年が、国語B、算数A、算数Bで県と国の平均を上回り、指導の成果が見られた。「埼玉県学力・学習状況調査」では、やはり第6学年は、市や県の平均を上回ったものの、第4・5学年では国語と算数で下回っており、大きな課題となっている。

体力では、昨年度の県平均値と本年度の本校平均値の比較で、48項目中、男子が35項目、女子は44項目上回った。藤っ子体操を行い全身を使って運動したり、業前マラソンでマラソンカードを使って走ったりして体力を高めるために取り組んできたことが成果となって表れてきた。引き続き、握力とボール投げを課題として取り組んでいく。

規律ある態度については、授業や活動の時刻を守ることや進んで掃除をし、学校をきれいにすることについては、達成率90%を大きく上回っている。しかし、低学年では学習の準備、中学年から高学年については、自分の考えを伝えることが、達成率が80%を下回り、課題である。

## 4 次年度に向けての展望

本校の課題は、全国及び県の学力・学習状況調査の質問紙調査で明らかになった自主的な勉強、学習習慣の定着である。「全国学力・学習状況調査」での「学校の授業以外に、普段（月～金）どれくらいの時間勉強しますか。（1時間以上）」の質問に対して、59.5%と最も低く、県や国の平均を下回っている。また、「埼玉県学力・学習状況調査」においても、第4学年で46.1%、第5学年で57.5%、第6学年で51.9%と全ての質問項目で最も低く、県の平均を下回っている。前述したように、保護者アンケートにおいても、「家庭での学習習慣が身に付いている」「勉強や運動など、粘り強く努力している」は、全質問項目で最も低く80%台に止まっている。家庭学習については、本年度から中学校と連携して、学年の発達の段階毎に目安を設定したので、今後も継続して取り組んでいく。

児童の学力向上を中心に、生きる力の育成に向けて、全教職員で取り組んでいく。そして、学校評価で課題となっている事項を踏まえ、学校運営並びに教育活動の推進、充実を図っていく。